

第2部

基本構想



第1章 まちづくりの基本理念

第七次猪苗代町振興計画では、これまでの振興計画の流れをふまえ、新しい時代に対応するため、基本理念を次のとおりに定めます。

まちづくりの基本理念

ともに地域を育て、みんなが心地よく暮らせるまち 猪苗代

少子高齢化と人口減少が同時に進行するなか、本町では、行政と町民の協働や町民による地域資源の再発見・活用に向けた動きが進んでおり、自らをまちづくりの担い手として地域をともに育てるという意識が高まっています。

今後も、町民一人一人が手を取り、立ち向かうべきさまざまな課題を解決するため、自然や産業、未来を担う人材などをともに育てる取り組みを進めます。さらに、まちの将来について考え、自由に意見交換を行える場づくりを進めることで、多様化するニーズを的確に把握し、施策に反映していくための体制づくりを推進します。

これらの取り組みにより、あらゆる年代・立場の人々が、本町に住んでみたい・いつまでも住み続けたいという希望を持ち、本町を訪れる人々も充実して過ごせるようなまちを目指します。そのなかで、町民同士、町民と来訪者、生産者と消費者などのつながりを深め、人と人、人とまちへ広がる多様な関係性を築くことで、さらに地域の魅力を輝かせ、みんなが心地よく暮らせるまちをつくります。



第2章 5つの基本目標

2-1 安全・安心を肌で感じる。

町民生活の基本的条件は、安全・安心です。安全・安心を感じるためには、基盤となる生活環境・交通の整備、子育て支援の充実、災害予防と災害対応の強化、福祉サービスの充実と心身の健康が求められます。これは、どのような時代・場所・人にも共通する、皆の願いです。社会情勢の変化が激しい時代に、この目標を掲げることで、その価値を見直し、町民生活の基盤を強固なものにすることで、安全・安心を肌で感じることのできるまちを目指します。

2-2 豊かな自然を活かしきる。

本町は、自然豊かなまちです。この自然を活かし、農業や観光をはじめとするさまざまな産業が息づいてきました。少子高齢化と人口減少が進行する現代においては、磐梯山・猪苗代湖・広い田園地帯に代表される自然を保全しつつ、農業・商業・工業・観光産業の振興やまちづくりのために、これまで以上に本町の豊かな自然資源を活用する知恵と実行力が必要です。豊かな自然を産業の振興等へ「活かしきる」仕組みづくりの構築を目指します。

2-3 いつまでも猪苗代に暮らす。

本町における移住・定住を促進するためには、誰もが住みたいと思える魅力的な暮らしを実現することが重要です。例えば、本町では平日は磐梯山を眺め通勤・通学ができ、休日は豊かな自然を活かしたレジャーを楽しむことができます。食や文化に代表される本町の地域資源を活かし、誰にとっても魅力を感じられる暮らしを実現するため、生涯学習や地域文化の交流等を推進し、いつまでも猪苗代に暮らす人の増加を目指します。

2-4 人をつくる。そして、まちをつくる。

まちづくりは、人づくりです。そして、人がまちをつくります。人づくりのためには、これまで取り組んできた教育を充実させる一方で、民間団体などとともにさまざまな主体との連携による学びが求められます。本町で取り組んでいる学びを内外に発信し、人材の育成を行うことで、まちを活性化させます。教育を通じ、本町のみらいを担う人材の輩出を目指します。

2-5 協働により、みらいをひらく。

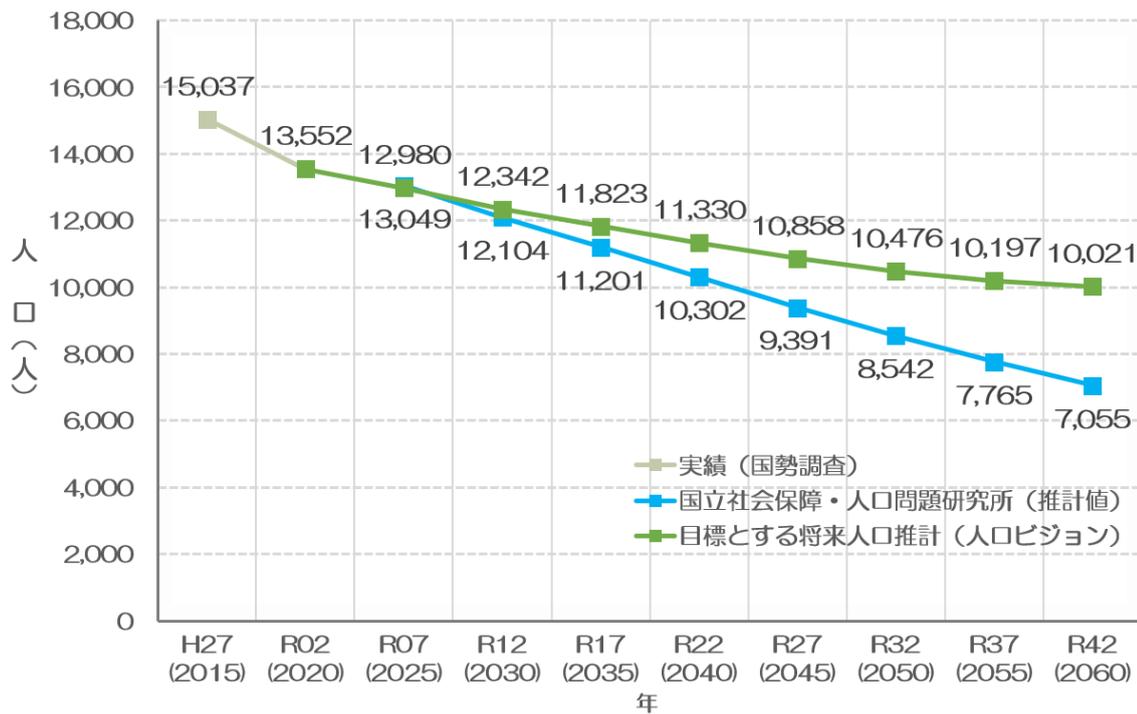
みらいあるまちづくりのためには、これまで唱えられてきた官民連携だけではなく、民間同士といった多様な連携が必要となります。官民・民民の連携の輪を広げることが、住民参加を推進させ、結果としてまち全体の協働へとつながります。協働を突破口とし、行財政運営などの課題にあたることで、持続可能なみらいあるまちづくりの一層の推進を目指します。

第3章 人口の将来展望

本町では、これまでの推移から今後も人口減少が進むことが見込まれていますが、昨年度策定した「猪苗代町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」では、雇用の場と就業機会の拡大、安心して子どもを産み育てることができる環境の整備や、移住・定住の促進など、さまざまな施策に積極的に取り組むことによって、人口の減少に歯止めをかけることとしています。

したがって、本計画期間においては、「猪苗代町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」を踏まえ、本計画の最終年である令和8年（2026年）の総人口は、12,900人を目指すものとします。

図2-1 計画期間における人口の推移と将来展望



出展：令和2年までは国勢調査（確定値）、令和2年以降は人口ビジョンの推計値

第4章 施策の大綱

4-1 安全・安心を肌で感じる。

(1) まちの基盤づくり

本町の中心部は公共施設や駅、商業施設が比較的まとまって立地しており、コンパクトな都市構造の素地があると考えられます。今後も進むと想定される少子高齢化と人口減少に対応するため、町内全体の道路や公共交通のネットワークを再構築し、公共施設の維持管理体制の強化を進めることで、まちの基盤づくりを計画的に行います。また、安全で良質な水道水を供給するとともに、猪苗代湖をはじめとする公共用水域の水質保全のため、生活排水対策の充実を図ります。

(2) 安全・安心のまちづくり

本町は、自然豊かなまちです。一方で、降雪による交通の阻害や磐梯山をはじめ吾妻山、安達太良山の3つの活火山を有することから噴火による火山災害の恐れなどの課題があります。町民が一年を通じて安全・安心に生活するため、災害時に対応できる消防・救急体制を構築し、平常時は防犯と交通安全を強化します。また、自然と調和し、予想される災害への体制を強化することで、安全・安心をより強固なものにします。

(3) きめ細やかな子育て支援

本町における出生数は減少傾向にあり、全国的に社会問題となっている少子化問題についても例外ではありません。この問題に対応するため、みらいを担う子どもたちへのきめ細やかな子育て支援を一層充実させます。町の取り組みとしては、認定こども園のより一層の環境整備を図り、教育・保育の質の向上や子育て情報の提供について充実を図ります。また、「子ども・親・地域」とのきめ細やかな協力関係を構築し、子育てをする人が孤立することなく、安心して子育てのできるまちを目指します。

(4) 福祉と健康のまちづくり

本町における高齢者数は増加傾向にあり、それに伴い介護や医療などの社会的支援を必要とする人は増加しています。そのため、医療体制、介護予防・在宅介護の充実を図ります。また、それぞれの年代に対応した生涯福祉体系の充実と障がい（児）者への理解・啓発に努め、自立と社会参加を推進します。すべての町民が、一人一人に適した福祉サービスを受けることができ、心身の健康を保つことで安心を肌で感じる福祉と健康のまちを目指します。

4-2 豊かな自然を活かしきる。

(1) 観光まちづくりの推進

豊かな自然資源に囲まれた本町では、リゾート地としてさまざまな観光振興が進められてきましたが、バブルの崩壊、東日本大震災に伴う原子力発電所事故による風評被害などにより、観光客入込数が伸び悩み、近年は厳しい状況におかれています。そのため、道の駅猪苗代の整備を契機に、猪苗代における観光資源をあらためてPRし、基幹産業である農業と観光の連携を強化するとともに、観光従事者と観光に関連するまちづくり関係者との連携や協働による観光まちづくりを推進します。

(2) 地域産業の振興

本町では、豊かな自然を活かした農林水産業や商工業などによる地域振興を図ってきました。少子高齢化、職業の多様化などが進んだ現代において、都市部への人口流出を抑えて定住人口や交流人口を増やすためには、産業を元気にし、安定した雇用を創出することが重要な課題となります。そのため、新規就農者や担い手への育成・支援など、実情に合ったきめ細やかな施策を推進するとともに、地域製品のブランド化などにより、本町の魅力を活かした地域産業の振興を目指します。

(3) 自然資源の保全と活用

磐梯山、猪苗代湖、広い田園地帯に代表される本町の美しい自然資源は、わたしたち世代だけのものではありません。この美しい自然資源を豊かなままで次世代の町民に受け継いでいくために、森林や生き物の保護、景観の保全、適正な土地利用の推進などに努めます。また、生活や産業に利用される猪苗代湖の水質を守り、本町にあふれる自然の恵みを再生可能エネルギーなどの取り組みに十分に活かせるよう、自然資源の保全と活用を推進します。



4-3 いつまでも猪苗代に暮らす。

(1) 魅力的なライフスタイルの実現

本町は、県庁所在地である福島市、中核市である郡山市、会津地方の中心である会津若松市への通勤圏にあり、休日は自然資源等を活用したスポーツや自然・温泉を楽しむことができることから、魅力あるライフスタイルの実現が可能です。

一方で、進学や就職を機に町外へ転出した若い世代が町内に戻らないケースも多く、人口減少は今後も続くと予測されています。魅力的なまちづくりや雇用創出など、移住・定住の受け皿づくりを進め、若い世代を惹きつけ、移住・定住を促進するような魅力的なライフスタイルの実現を目指します。

(2) 地域文化を基盤とした交流

本町は、野口英世、猪苗代兼載などの偉人や文化人、土津神社や磐梯神社、猪苗代城跡などの貴重な文化財を生み出した歴史を持つまちで、これらの資源をこれまで以上に活用したまちづくりの推進が求められます。町内の歴史・風土に根ざした地域文化への理解を深め、次世代に継承するため、文化財等の保護・保全に向けた活動を支援します。また、これらの歴史や文化にふれる場づくりを行い、地域文化を基盤とした交流機会の拡大を図ります。

(3) 生涯学習の推進

本町は、磐梯山や猪苗代湖などの豊かな自然を活かしたさまざまなスポーツを一年を通じて楽しむことができます。また、高齢化社会が進行するなか、高齢者をはじめとする多くの町民が「生きがい」を求めるようになってきました。本町では健康づくりや生きがいづくりなどのスポーツや文化・教育活動、自発的な学習活動を多くの町民に楽しんでいただくため、生涯学習を推進し、その振興に努めます。また、町内にある施設の有効活用、図書館サービスの充実、町民の年齢や技能に応じたプログラムの充実を図るとともに、民間指導者の育成や関連団体との連携など、総合的な環境づくりに努めることにより、生涯学習の推進を図ります。



4-4 人をつくる。そして、まちをつくる。

(1) 地域を担う人材の育成

本町を形づくるのは、一人一人の町民です。町民それぞれの成長や活躍がまちの発展につながっていきます。地域の活力とは、最終的には「地域を担う」人の力の総和にほかなりません。そのため、地域を担う人材の育成を目指し、高校や大学をはじめとする教育機関、民間団体との連携を強化します。また、インバウンド観光も視野に入れた町民のおもてなし力の向上を図ります。

(2) 教育の充実

児童・生徒を取り巻く環境は、少子化の進行など日ごとに大きく変化しており、生きる力と豊かな人間性の形成につながるよう、幼児教育・学校教育の充実と地域を担う人材の育成が求められています。そのため、地域とのつながりのある学校づくり、認定こども園・小学校・中学校・高校等の体系的な教育課程や家庭・地域社会と連携した教育活動を進めます。また、人口動向や地域特性を踏まえながら、小・中学校の統合と通学区の見直しを進め、学校単位の行事・クラブ活動の活性化、交流の広域化を図り、安全で充実した学校教育の環境を整備します。

4-5 協働により、みらいをひらく。

(1) 新しい時代の行財政運営

少子高齢化と人口減少が進行する現代において、持続可能な行財政運営を図るため、事業の見直しや民間活力の導入、財源の確保に努めます。また、町民にとってよりわかりやすい行政情報、地域情報の公開・伝達を目指し、情報ネットワーク技術の活用を図るとともに、多様化する町民のニーズに柔軟に対応し、質の高い行政サービスを提供できるよう、職員の育成や組織体制づくりを推進します。

(2) 住民参加の推進

まちづくりは、行政だけで行うものではありません。町民と行政の協働によるまちづくりを根付かせるために、両者がより良いパートナーシップを築き、住民参加の仕組みをつくり上げていくことが重要です。誰もが「より良いまちづくりへ」という共通した思いを持ち、できることを着実に進めていく風土をつくるため、官民協働の取り組みを進めます。また、誰もが男女共同参画の意識を高くもち、まちに貢献することで、いきいきと暮らすことができる地域社会の実現を目指すため、住民参加の推進を図ります。